

四王寺山 (しおうじやま)

(大原山・大城山・岩屋山)

福岡県 大野城市・大宰府市・糟屋郡宇美町 2024年 12月2日

史跡巡りと眺望を楽しむ山歩き



特別史跡 大野城跡 小石垣(こいしがき)

本日のコース <全行程 5時間26分>

焼米ヶ原駐車場登山口 8:57 → 展望台 9:07 → 遠見所 9:17 → 大原山 9:31 →
大野城跡 小石垣 10:04 → 鮎返りの滝 10:36 → バイオトイレ 10:43 →
野外音楽堂 11:17 <昼食> 11:50 → 毘沙門天 12:10 → 大城山 12:12 →
展望所 12:15 → けいさしの井戸 12:38 → 水城口城門 12:41 → もみじ谷 12:48 →
県民の森センター 13:13 → こどもの国 13:21 → 焼米ヶ原駐車場登山口 13:37 →
23番カーブ 13:44 → 岩屋山登山口 13:47 → 岩屋山山頂 13:58 →
岩屋山登山口 14:02 → 高橋紹運公並びに勇士の墓 14:07 → 23番カーブ 14:23

四王寺山とは太宰府市、大野城市、糟屋郡宇美町に跨る山で、四座(大城山・大原山・岩屋山・水瓶山)が連なる一帯の山地を総称した呼び名です。今回は地元のU田師匠に案内して頂きました。おかげで効率よく史跡と紅葉の見どころを周回することが出来ました。

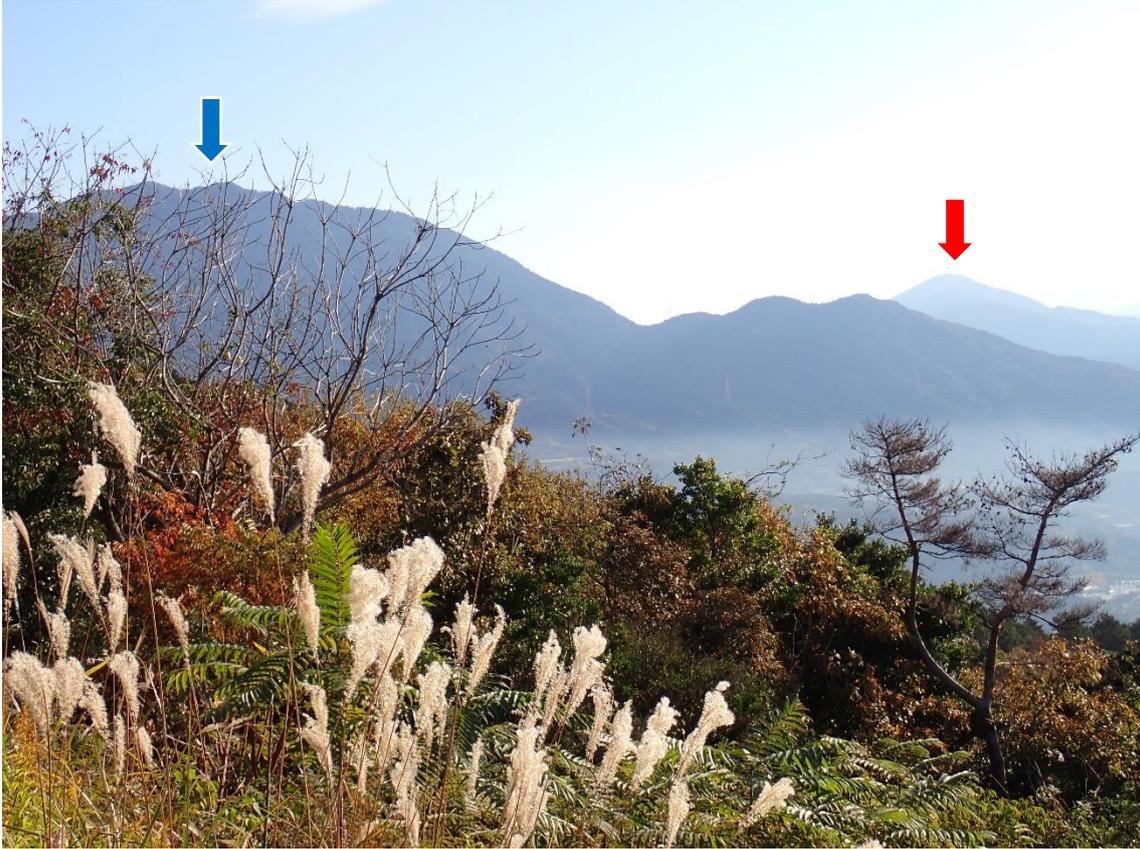


焼米ヶ原駐車場登山口 8:57 先着車は1台だった



大野城跡の説明標識 「大野城とは」

ここ四王寺山の一带には、今から1300年以上前の665年に築かれた朝鮮式山城の跡があります。名を大野城といい、頂上域全体を囲むように土や石の城壁を巡らし、その中に建物を建てました。約70棟の建物跡が見つかっており、そのほとんどが高床の倉庫と考えられます。城壁は総延長約8kmにおよび、現在のところ、9箇所の城門(出入口)が確認されています。この大野城は同時に築かれた基肆城(眼下の平野をはさんで向かい側(南)にある基山)、前年の664年に造られた水城とともに大宰府地域を守る役目を果たしました。(説明標識より)



少し歩くと宝満山や、右手奥に先月歩いた大根地山が見えている



焼米ヶ原に向かって歩く 8:58
右側の眺望を楽しみながら進んで行く



焼米ヶ原 9:03 仮設トイレが設置されている

ここには 10 棟の礎石建物跡があり、そのうちの 1 棟の建物周辺からは、黒く炭化した米がたくさん採集されたことから「焼米ヶ原」と呼ばれているそうです。



焼米ヶ原展望所 9:07



焼米ヶ原展望所からの眺望 9:08 遠くに基山(基肆城跡)とその手前に天拝山



鬼の腰かけ 9:14 普通の岩に見えるが・・・

焼米ヶ原から尾根を大原山方面に 5 分程歩いた地点にある。この岩は「鬼の腰掛け伝説」の場所とされ、「1 月 7 日の太宰府天満宮の鬼すべの夜、鬼がこの岩に腰かけて下を見ると、鬼すべ堂でひどい目に遭っている仲間の姿が見えて、涙を流した」という伝説がある。(ネット調べ)



遠見所への分岐 9:16 ちょっと寄って行こう！



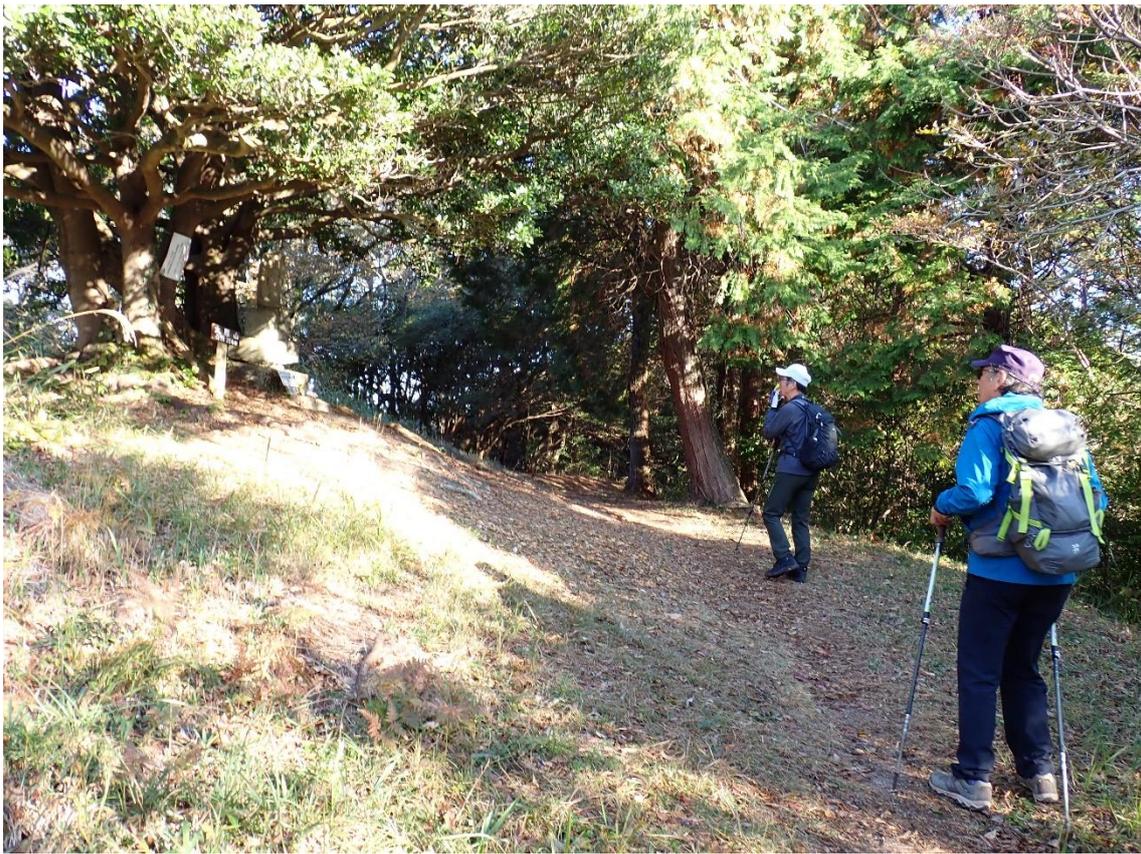
遠見所からの眺望 9:17 空気が澄んできたようだ



なだらかな登山道を快調に進む 9:20 次は大原山を目指す！



ツワブキが顔を出す



大原山(おおばるやま) 9:31 354m 山頂とは思えない



大原山山頂碑と十五番札所の石碑



17番札所通過 9:47 1月~2月、この辺りに春を告げるセリバオウレンが咲くらしい



小石垣を目指す! 9:54



壊れ落ちた小石垣の標識 10:04



標識から右を見上げると石垣が見える(1300年以上前の石垣)



特別史跡 大野城跡 小石垣

大野城は、663年(天智2)白村江の敗戦を期に西日本各地に築かれた山城の一つで、水城・基肆城(きいじょう)とともに大宰府を守る役割を担っていた。周囲6.5キロを土塁(高い土手)で取り囲み、谷は石塁(石積みのダム)で塞ぎ、要所に門をつくり場内に武器や穀物を納めたたくさんの倉庫などを作った。小石垣は城の東北部にあり、二重土塁の内側の石塁である。石塁はほとんど崩れてしまったが、上端幅5m・高さ10m・両岸間30mほどで、水門もあったのだろう。見えている石塁のほか地下に残っている部分がある。(説明標識より)



木の橋を渡って進む 10:06



紅葉



黃葉



見上げれば紅葉が素晴らしい 10:11



ヒンヤリした空気の中、晩秋を感じながら気分良く歩く 10:14



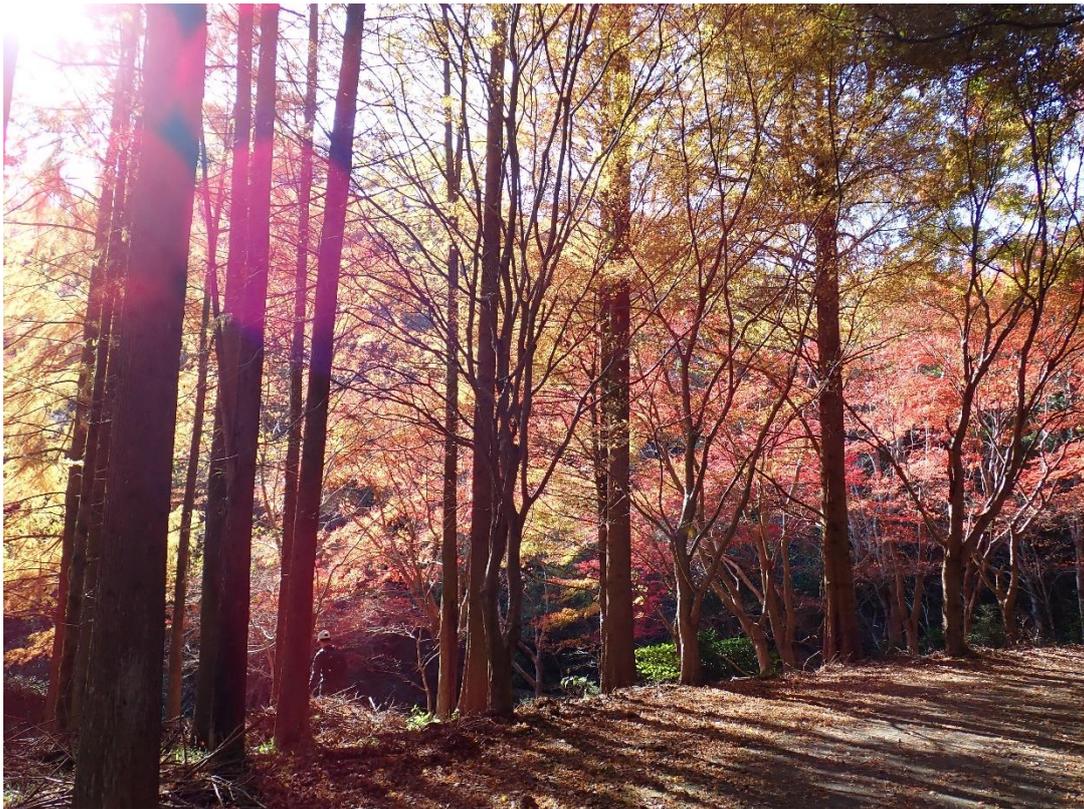
メタセコイアの黄葉とモミジの紅葉



モミジの下で記念撮影
本日同行のT師匠(左)とU田師匠(右)



モミジの天井



この雰囲気好きだな～



素晴らしいモミジの下で秋を満喫

紅葉を見ていたら歩が進まない



下り坂は落葉で滑る、滑る！注意、注意！ 10:33 少し下って橋を渡ると…



鮎返りの滝 10:36 滝つぼに近づくと少し寒い



サルノコシカケ 4段

サルノコシカケは木を腐らせる原因になるらしい。食用にはならず、薬用として利用される。



ホオノキの落ち葉(ホオは包の意味)

殺菌作用があり、昔は食べ物をのせたり、包んだりするのに使われていた。
朴葉(ほおば)味噌や朴葉寿司等、この葉を使った料理はたくさんある。



バイオトイレ 10:43



内部も綺麗に使用されています



一旦車道を歩き、また登山道に入る 10:52 U田師匠の案内がとても有難い



急斜面を上って昼食場所に決めた野外音楽堂を目指す！ 10:56



登るにつれて、三郡山のレーダードームが見えてくる。右隣には頭巾(とっきん)山。 11:00



野外音楽堂 11:16



野外音楽堂 11:17 到着 <昼食> 11:50 出発



昼食後、野外音楽堂の上から登山道へ 11:53 毘沙門堂を目指す！



少し歩くと建物が見えてきた 12:09



昆沙門堂 12:10 登山安全祈願参拝



宇美町指定 民族文化財 「四王寺毘沙門詣り」

毎年、1月3日、ここ毘沙門堂で、「四王寺毘沙門詣り」が行われます。

早朝から、毘沙門堂を目指し多くの参拝客が山道を登ってきます。参拝者は、お堂の前に置かれたお盆からお賽銭を借りて帰り、翌年の参拝のときに、借りたお賽銭の倍の額を返し、また新たにお賽銭を借りて帰るということを繰り返すものです。このお詣りをするので、1年間お金に不自由しないと伝えられています。

江戸時代の古文書「筑前國統風土記拾遺」には、「村(四王寺村)の西の峰高き所に在。石の堂也。……<中略>……

この文章を読み解くと四王寺村の西の高台に石像を納めた石堂があり、旧暦の正月3日と9月13日に成泉坊という山伏が神事を行っていることがわかります。

「四王寺毘沙門詣り」は、宇美町民族文化財に指定され、現在、四王寺地区の住民の方々によって、大切に守り伝え続けられている行事です。(説明張り紙より抜粋)



大城山(おおきやま) 12:12 毘沙門堂から見える小高い場所が大城山になる



大城山(おおきやま)山頂碑 12:12 410m
四王寺山四座の中で最高峰



展望所 12:15 大城山から下るとすぐに展望台となる
ここからは、九千部山、牛頸山、背振山、金山、井原山、油山などの稜線が見える。



大野城歴史の散歩道 展望所③

「大野城に登れば日本の古代が見える！」

細長い緑の帯は水城跡。奥の牛頸山麓には、須影器窯跡が今も残ります。水城の東西の門からのびる官道を使って、大宰府や鴻臚館などへ人やモノが往来していました。(説明標識より)



毘沙門堂への鳥居前を通り過ぎて進む 12:20



天目広方面へ進む 12:23



けいさしの井戸に立ち寄る 12:38 まるで落とし穴のようで夕暮れ時は要注意！



水城口城門前を通過 12:41
これから「もみじ谷」を下って「県民の森センター」を目指す！



もみじ谷 12:48

残念ながらもみじ谷の紅葉は終わっていた。モミジの落ち葉を踏み締めて下った。



時々、落ち葉を拾いながら秋を楽しむ



もみじ谷を下り終えた 12:52



見事な紅葉の下で記念撮影 12:59



白いサザンカ(山茶花) 花言葉:「愛嬌」「あなたは私の愛を退ける」



ピンクのサザンカ(山茶花) 花言葉:「永遠の愛」
紅葉に加え、山茶花も咲き競っていた



県民の森センター 13:13



こどもの国 13:21 広場の中を通過



スタート地点の焼米ヶ原駐車場を目指す！ 13:30 紅葉の中を上っていくと…



車道に飛び出した 13:32



焼米ヶ原駐車場登山口 13:37 駐車スペースは満車だった！

今回はここでゴールではなく、もう一座目指すことになった。

ここから車に乗り、四王寺林道を800m程下って岩屋山の登山口へ移動する。



23番カーブの少し広目の路肩に駐車 13:44 ここから 50m程車道を下ると登山口



岩屋山登山口 13:47



シマカンギク？



岩屋山山頂 13:58 あっという間に登頂



岩屋山山頂碑 標高281m
登頂記念撮影をパチリ

この場所は、岩屋山(標高281m)と称し、戦国時代には岩屋城の本丸(甲の丸)であったと伝えられている。林道で分断された南側下方には二の丸があり、1586年の岩屋城の合戦で討死した城主の高橋紹運の胴塚がある。また、この主郭の周囲から山麓にかけての広範囲に、曲輪(平坦面)、竪堀、堀切も残されている。また、本丸跡にある「嗚呼壮烈岩屋城」の碑は、昭和30年に高橋紹運の家臣の子孫によって建てられたものである。(展望広場説明標識より)



宝満山(岩屋山山頂より望む)

古代大宰府の北東の鬼門に位置する標高829mの山で、古くは御笠山や竈門山と呼ばれていた。山麓には紅葉の美しい竈門神社下宮が鎮座する。山中には奈良時代から江戸時代にかけての建物跡や坊跡が残されている。(展望広場説明標識より)



「嗚呼壯烈 岩屋城址」の石碑



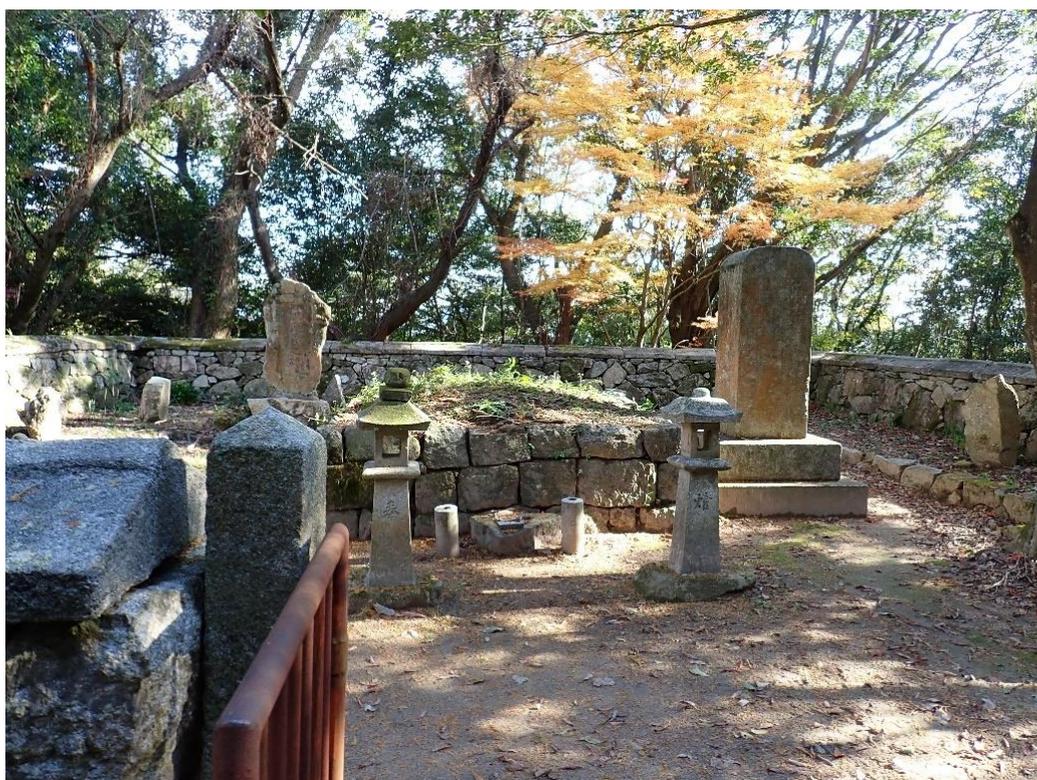
整備された山頂広場で少し休憩



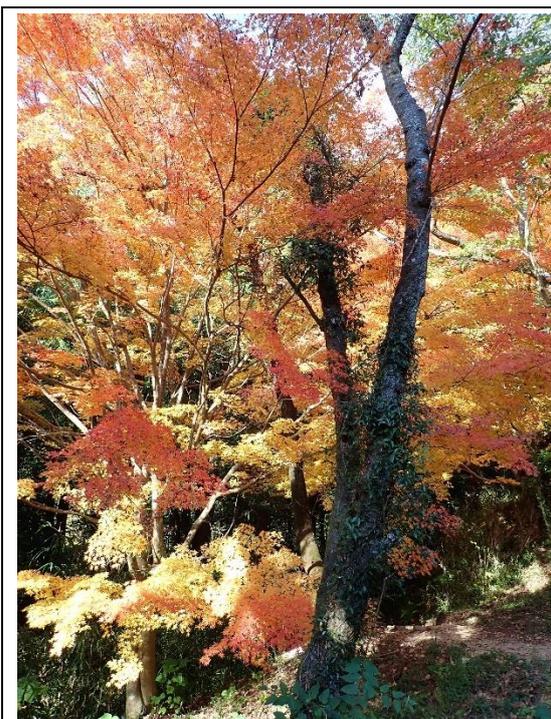
眼下に太宰府市内(大宰府天満宮や九州国立博物館の青屋根が見える)



岩屋山登山口に戻ってきた 14:02 ここから道路を横断して高橋紹運公のお墓へ



高橋紹運公並びに勇士の墓 14:07 綺麗にお掃除されている



高橋紹運公のお墓の周辺は紅葉が真っ盛り
思わず見惚れてゆっくり紅葉狩り
紹運公に手を合わせて往路を戻る



四王寺林道に戻ってきた 14:22
今日の登山はここで終了
23番カーブに停めた車が見える



23番カーブ 14:23 ゴール
7kmほど歩いたが殆ど疲れは感じなかった
秋を大満喫出来て文句なし！

5時間26分の山歩きが無事に終了
スマホの歩数計は 15042歩。T師匠、U師匠お世話になりました。
お疲れさまでした。